

香取遺産

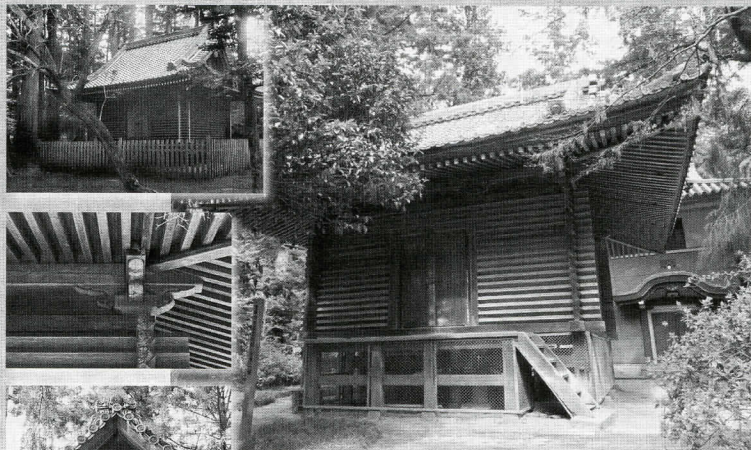
Vol.118

香取神宮しんぐ神庫

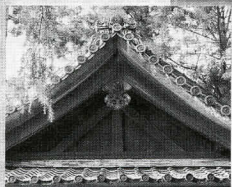
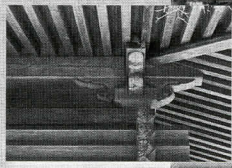
近代の校倉建築あせくら

圓生涯学習課

☎(50)1224



▲神庫全景



◀妻部 (猪又首、三花懸魚)

神社にある文化財建造物と言
うと、古い時代の建物と思われ
がちですが、新しい時期のもの
でも文化財の指定を受けること
があります。

その一つが香取神宮の神庫で
す。本殿の東側、木立に隠れる
ように建つ木造建築で、明治42
年(1909)に建てられました。

この建物の一番の特徴は、本
格的な校倉であることです。校
倉というのは、三角形や四角形
あるいは台形などの横材を井桁
に組んで外壁とした倉です。こ
のような校倉造りの建物は、奈
良時代から平安時代にかけて、
国府や寺院の倉として建築され
た例があります。東大寺の正倉
院などがその代表例です。

神庫は、桁行、梁間とも三間、
18・2尺(5・5m)四方の、
中規模の校倉です。

床下の束の上に台輪という横
材を渡し、その上に校木(校倉
の横木)を18段積み上げて壁面
とし、さらに台輪を置いて大斗
肘木(肘木は雲形)という組物
を組んでいます。校木の断面は、

横幅は狭く、外角に面を取らな
い五角形となります。壁面の
の方では、その校木の内面を組
物の真(中心)に揃えているら
しく、壁の中心線より組物がわ
ずかに内側に入ります。

屋根は入母屋造で、棧瓦葺き、
側面の妻部に猪又首を組み、破
風には変形の三花懸魚を付けて
います。

正面中央には幣軸付板扉を構
え、その前に縁を設けて右側に
階段を設けています。ただし縁
は後付けのもので、当初は板扉
の正面に階段が付いていました。
内部の側面・背面の三方には、
2段のガラス戸棚が設置されて
います。かつて展示施設として
使用されたことがあるため、そ
の際に加えられたものでしょう
か。上段と下段の間に板屋根を
付けた、凝った造りをしていま
す。

香取神宮に伝わる宝物類を保
管、展示してきた重要な建物で、
平成6年に市の指定文化財とな
りました。

▶建築当初の絵葉書

▶組物付近